様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：６２６１８
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ１８６８５

研究課題名（和文）コミュニケーション能力を高める自然会話教材の高度共有化－共同体の構築に向けて－

研究課題名（英文）Higher-level sharing of natural conversation teaching materials which facilitate the oral communication proficiency:For the formation of the community

研究代表者
宇佐美　まゆみ（Mayumi, Usami）

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授

研究者番号：９０２５５８９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,900,000円

研究成果の概要（和文）：この研究では、「研究用」と「教材用」の２つから成るNCRB（Natural Conversation Resource Bank）という「自然会話リソースバンク」というプラットフォームを構築して、収集や文字化に膨大な時間と労力がかかる「自然会話の分析」に必要なデータを搭載し、それらのデータを用いた「自然会話を素材とする教材」をオンラインで作成するためのテンプレートを、広く関連の研究者、教育者に活用してもらえるようにした。「研究用」のほうには、『BTSJ日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）』（2021年3月版、446会話）を搭載し完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
①世界に先駆けて「自然会話を素材とする教材」をオンラインで作成できるようにするとともに、教材が「共同で」構築できるようにすることによって、教育者各自の労力を軽減し、且つ、より多くの教材を活用できるようにした点。②「研究用」のほうに搭載した『BTSJ日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）』（2021年3月版、446会話）は、「教材作成用」のデータとしても利用できる点。③これらによって、研究者、教育者各自の負担を減らすとともに、今後の自然会話教材のオンライン上での高度共有化に向けての「共同体」の形成・発展のための「基盤」を構築し、コミュニケーション能力の養成に貢献できた点。

研究成果の概要（英文）：In this research, we built a platform called the Natural Conversation Resource Bank (NCRB), which consists of two parts: one for research and the other for teaching materials, and loaded it with the data necessary for the "analysis of natural conversation," which requires a great deal of time and effort to collect and transcribe. The platform also provides a template for creating "teaching materials using natural conversations" to utilize a wide range of related researchers and educators. The other part, for 'research use,' the BTSJ Japanese Natural Conversation Corpus (transcripts and recordings) (March 2021 version, 446 conversations) has been installed.

研究分野：日本語教育学　談話研究　言語社会心理学

キーワード：WEB教材　自然会話教材　共同構築型教材　コミュニケーション能力養成　会話能力　語用論　リソースバンク　高度共有化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

今日「自然会話データ」の意義と貴重性が認識されているにもかかわらず、自然会話の収集や文字化には膨大な時間と労力がかかるため、個人や少数の研究グループでは、本格的な研究や教材作成が行いにくいという環境にあった。本研究では、そのような現状を鑑み、NCRB（Natural Conversation Resource Bank）という共同構築型の「自然会話リソースバンク」を構築し、オンライン上にプラットフォームを構築することによって、「自然会話の分析」と、それを用いた「自然会話を素材とする教材」を、広く関連の研究者、教育者に公開し、活用してもらうことを企図した。また、NCRB に自然会話データを格納した「共同構築型多機能データベース」というリソースバンクにすることによって、オンライン上での自然会話教材の高度共有化に向けて「共同体」を構築し、自然会話データをリソースとする教材作成を共同構築型、効率化していくことが必要と考えた。

２．研究の目的

NCRB（Natural Conversation Resource Bank）は、現在、国立国語研究所で構築中の「研究用」と「教材用」の２つから成る共同構築型多機能データベースである。本研究の目的は、そのうち、教材用のシステムを用いて、国内外の協力者に NCRB 上で「自然会話を素材とする教材」を作成してもらい、その評価と分析を行いながら、「自然会話を素材とする教材」を共有化し、共同構築を試験的に運用することによって、今後、オ ンライン上で「自然会話を素材とする教材」を高度共有化し、「共同体」を形成し発展させていくための基盤を構築することである。

３．研究の方法

３年間の研究計画・方法は、以下の４つにまとめられる。

（１）NCRB のプラットフォームの「教材用」システムを、簡単なマニュアルとともに国内外の研究協力者に試験的に限定公開し、各地の現状にあった実際的な教材の作成を、NCRB の中の「自然会話教材作成支援機能」を用いて集中的に行ってもらった。

（２）　試作された教材を応募者と研究分担者、研究協力者で１シーンごとに精査した上で、一部授業で試験的に利用したり、研究協力者の学生等に試験的に自主利用してもらい、その利用法や使い勝手などについて、フィードバックを行ってもらった。

（３）フィードバックをもとに、NCRB の機能改善を行った。

（４）「第１次共同体」（限定した依頼者）に、NCRB 上で教材を作成してもらいながら、「自然な日本語コミュニケーション能力」を養成するための「共同構築型 WEB 教材」の開発、作成のための「共同体」の体制作りを行った。

４．研究成果

（１）本研究では、多様な自然会話の動画・音声・文字化資料を格納し、「教材作成支援機能」を合わせ持つ「自然会話を素材とするウェブ教材」を、共同構築型にするという世界初の試みを行った。NCRB は、自然会話データを格納する「自然会話データを使った研究（データ登録・利用）」と、「自然会話を素材とする教材（作成・利用）」の二つの部分に分かれ、具体的に「研究データ登録」、「研究データ利用」と「教材登録・作成・編集」、「教材利用」の４つの機能から構成される WEB 上の「プラットフォーム」である。

NCRB には大量の自然会話の動画や音声、文字化データが登録されているため、最終年度には、特に、ユーザー登録機能について、プライバシー保護とセキュリティーに細心の注意を図り、動画や音声の提供に協力してくれるインフォーマントの「プライバシーの保護」については、国立国語研究所の定める「国立国語研究所における人を対象とする研究に関する倫理規定」に従い、以下のように身分証明書などをオンラインで登録する形にした。

NCRB を利用するためには、次の規定に従う必要がある。①NCRB のユーザーは、所属が記載された顔写真付きの身分証明書を PDF 形式で提出し、NCRB の管理者の承認を得る。②NCRB に自然会話の動画をアップロードする際、動画に含まれているインフォーマント全員の撮影への「同意書」を提出する。③アップロードした音声・文字化資料（トランスクリプト）、及び「会話情報」については、NCRB の管理者が、内容や個人情報保護処理の適切性を確認・承認した場合、登録された動画が共同構築用素材として公開可能になる。

機能について順次説明する。「研究データ登録」では、利用者は、NCRB に登録されている会話の動画や音声、および文字化データを研究のために利用し、また、利用者自身が収集したデータを NCRB に研究用として登録・提供することで、他の利用者と研究データを共有することができる。「研究データ利用」では、利用者は、NCRB に研究用として登録されている会話データを閲覧したりダウンロードして、自身の研究のために利用することができる。

「教材登録・作成・編集」の機能としては、利用者は、自身が収集した会話の動画データを NCRB の教材用として登録し、文字化入力・言語的説明の付与・設問の作成等をすることで、「自然会話を素材とする教材」を作成することができる。「教材利用」では、NCRB に登録し、作成・編集された教材を教師の立場で授業の中で利用したり、授業を受講している学生の独習用や課題と

して使ったり、学習者の観点に立って利用することができる。以下に、トップページの図を示しておく。

図１　NCRB トップページ

（２）NCRB 上の「自然会話を素材とする教材」の特徴

この教材の最大の特徴は、教材用に作られたダイアローグ（会話）ではなく、シナリオがないという意味で自然な会話を素材として、そのトランスクリプトがすべて動画に合わせて表示されるようになっている。以下の図２に示すように、教材作成の段階では、トランスクリプトの右側にあるボタンをクリックすると、ユーザーが解説を入力できるようになっており、学習者が「利用画面」で各発話をクリックすると、入力された解説を読むことができる。この解説は、「内容」「表現」「会話ストラテジー」「ポライトネス」「文化」の５つの観点ごとに書き込めるようになっている。

図２　自然会話トランスクリプト教材（発話内容の解説入力画面）

この教材では、学習者の個別の興味を満たし、学習内容のインプットを重視している。そのため、発話産出のための練習は設けていないが、内容のポイントと、自然会話ならではの話者間の関係がやりとりから推測できたか等を確認するような設問を設けている。以下の図３に示した「Q&A」の部分は、Step１～３に分かれており、それぞれ以下のような趣旨の設問を作成する。これらの設問も登録者が追加していく共同構築型になっている。Step1 は、動画視聴前にウォーミングアップとして行うもので、一般的知識を活用して「会話展開を予想させるための設問」である。利用者が動画を見る前に、動画の中の会話展開のイメージや予想を促すような質問を作成する。（例：3 人が注文する際、どのようなやり方になると思いますか？或いは、どのような注文の仕方がありますか？）Step2 は、動画視聴後に、会話内容を確認する設問で、会話内容の事実を確認するような質問、スクリプトの発話内容を確認すれば、答えられるような比較的シンプルな質問を作成する。（例：田中さんは、何を注文しましたか？）Step3 は、会話における登場人物の人間関係や発話の含意などを問う設問で、発話内容に明示的に表れてはいないけれども、話者同士の関係などが反映されている「言葉遣い」に関する質問、発話の含意を確認するような質問を作成する。Step2 の問題より、より深く単なる言葉の意味・機能を超えた理解を確認するような質問を作成する。例えば、「この 3 人は、どのような関係だ

と思いますか？」というような質問で、スピーチレベルの違いや切り替えなどから判断できるかどうかを確認する類の問題である。

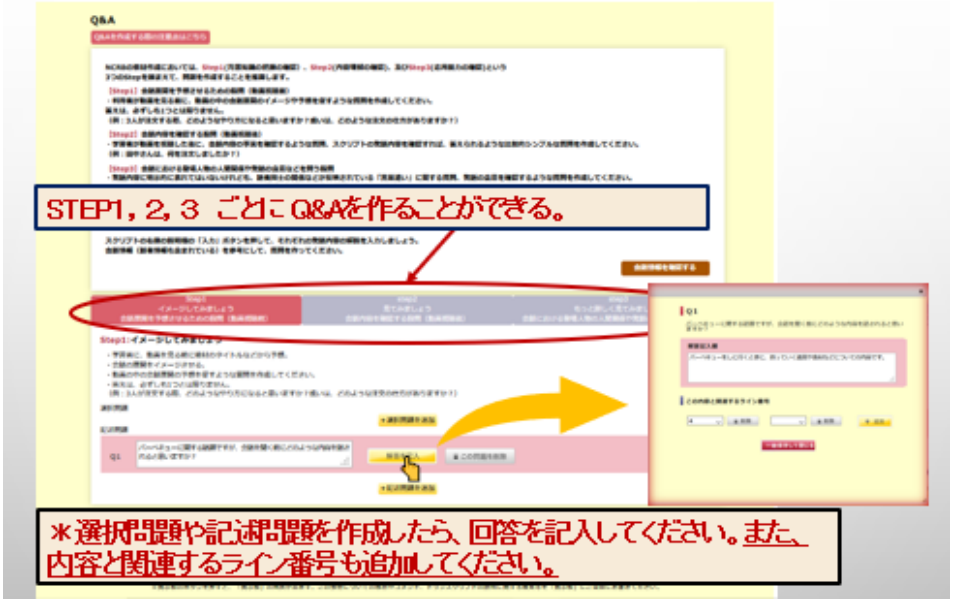

図３　Q&A の作成画面

（３）NCRB に搭載したデータ

NCRB の自然会話データを格納する「研究」の部分には、宇佐美まゆみ監修(2021)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2021 年 3 月版』のデータ（多様な自然会話の映像・音声・文字化資料（446 会話分)」を格納した。NCRB に登録した利用者は、BTSJ コーパスのデータを自分自身の研究内容に合わせて、個別会話やグループ化した会話をダウンロードして研究を行うことができる。

本科研では、教材のプラットフォームを完成させ、「教材」の作成機能の拡充と、いくつかのデータの先行登録を行った。現段階では「レストランでの会話」(3 会話)、「夫婦の会話」(3 会話)、「大学生の友人同士による対面の会話」(28 会話)、「大学生の友人同士による Zoom 会話」（3 会話)、「ロシア人観光客と日本人旅館女将・主人の会話」(15 会話）の全 52 会話分の動画及びその会話の文字化スクリプトデータが搭載されている。52 会話の内訳は、母語場面（37 会話)、非母語場面（15 会話）となっている。

NCRB 教材のコンテンツは、母語話者の会話場面のみならず、非母語話者の会話場面も積極的に扱う。NCRB の教材の趣旨は、いわゆるモデル会話を示すようなものではなく、母語場面でも接触場面でも、実生活の中でよく見かける光景を「自然」と呼び、そのまま教材にしたものである。「自然会話を素材とする教材」では、教科書の説明だけでは分からない日本語母語話者の自然な発話に触れ、また、接触場面における母語話者と学習者との相互作用を観ることによって、学習者が、発話の特徴や談話レベルの問題点に自然に気づくことができるようになる。さらには、教材を作成する利用者同士が「教材作成支援機能」を利用し、動画に対応している「自然会話トランスクリプト教材」(文字化資料）に重要なポイントの説明や会話内容の理解を確認するための「Q&A」の作成などを共同構築することが可能となっている。教材を共同構築によって作成していくため、常時、教材の修正・更新・追加が可能となり、NCRB 教材のコンテンツを常に最新の状態に保つことができる。「教材作成」の部分に登録・作成・公開された「自然会話を素材とする教材」は、すべて「教材利用」の部分に反映され、教材利用する利用者は自由に利用することができる。

（４）教材作成のしやすさへの配慮

日本語教師は、とかく教科書などに基づいて、日本語学習に必要だと教師が考える要素を教えようとする傾向がある。そのため、学習者にとって重要であるにもかかわらず、日本語教師がその重要性に気がつかない場合が多々ある。NCRB では、学習者が自律学習を行うことによって、学習者自身がその重要性に気づくことを促進する。一方、日本語教師の側も学習者からの質問や学習内容を確認することによって、それらが学習者のニーズがある学習すべき項目であることに気づくことができる。また、NCRB には、各教材のページに「掲示板」を設けており、教材を作成する際に工夫した点や苦労した点、教材に対する感想などを投稿して、日本語教師間の意見交換の場所として利用することができる。NCRB は、教材を利用する学習者のみならず、日本語教師にも様々な気づきを提供する場となることを想定している。

（５）学習者の教材利用のしやすさへの配慮

NCRB 上で作成された「自然会話を素材とする教材」は、初級から超級に至るまでのすべての

レベルの学習者が、同じ素材を各自のレベルや興味に応じて活用することを推奨している。会話内容をキーワードで検索する機能も搭載しており、お気に入りの会話をまとめて「マイページ」に保存することもできる。さらに、会話の動画を見る際は、会話の内容に合わせて、該当するスクリプトの部分がハイライトされるため、会話内容を簡単に確認することができる。そして、会話内容の理解を確認するための「Q&A」に回答すると、正解・不正解のフィードバックが「○」と「×」で表示され、フィードバックの正解に対応するスクリプトの会話番号が表示される。その会話番号をクリックすると、該当するスクリプトの内容が画面上に表示され、内容を確認することができる。NCRB は、場面やレベルに応じて、日本語会話の音調、間合いなどの学習や討論の材料として、授業中に活用することもできる。授業で使う場合は、スピーチレベルのシフトなどの場面や人間関係に応じたコミュニケーションの方法について気づきを促し、議論をさせる等、様々な活用法が考えられる。

（６）　「共同構築」による「自然会話を素材とする教材」の試作

2020 年の最終年度には、国内外の 10 名の研究協力者に、NCRB に搭載されている「教材作成支援機能」を利用し、20 会話分の教材の試作を行ってもらった。作成された自然会話教材の解説内容・作成された質問等を分析した結果、（１）「自然会話トランスクリプト教材」の部分については、日本語教授経験が浅い人の場合、トランスクリプトに説明を加える際、従来の教材と同様に、単なる文法や表現の説明だけを加えるものが多かった。ただ、NCRB では、日本の社会や慣習、場面や人間関係に応じたコミュニケーションの仕方などを総合的に捉えることを重視している。日本語母語話者にとっては言語化しなくても当たり前のように話者同士が理解できいることも、学習者にとって、そのような習慣や理解の仕方は、決して当たり前のことではないことも多い。そこで、この教材では、トランスクリプト教材の説明の中に、着目すべき「会話ストラテジー」などの解説を入れることによって、日本語学習者が実際の日本語コミュニケーションの疑似体験をしながら、リアルタイムでは聞くことができない解説を確認することが可能になる。これらの活動を通して、学習者の自律学習が促進されることが期待できる。
（２）会話内容の理解度を確認する「Q&A」の部分については、４．１で説明したように、Step1～3 の各段階に適する質問を作成する必要がある。また、同時に 3 種類の問題全体を有機的にかかわる関係にすることによって、談話の文脈と会話のストラテジーが浮き彫りになるように、また、会話における登場人物の人間関係や発話内容に明示的に表現されていないが、話者同士の関係などが反映されている「言葉遣い」に関して、発話の含意を確認するような設問とする必要がある。さらには、3 ステップの設問の間にそれぞれの目的があって、かつ、その文脈に対応する適切な会話ストラテジーが使われていることを質問の形で、日本語学習者に具体的に提示、強調することは非常に重要である。しかし、それらが満たされている設問は、それほど多くなかった。これらのことにより、今後、「教材作成」のポイントをより具体的に提示する必要があることが明らかになった。

（７）今後の展望

NCRB は、さまざまな活用方法が考えられる。オンライン教材として、学習者の「独習」を促進するのみならず、大学の日本語教育における「教室学習」の「副教材」としての利用も想定している。また、授業内で扱うのみならず、課題として与える形にもできる。また、ニューノーマル時代のオンライン授業のコンテンツとしても利用できる。今後は、教材コンテンツをさらに拡充していくとともに、実際の教育現場で利用した場合は、その学習効果を評価することによって、「自然会話を素材とする教材」のより効果的な活用方法を提案していきたい。このような形で「自然会話を素材とする教材」を「共同で」構築していき、それを共有化するコミュニティーを形成していくということは、世界初の試みであり、関係者に資するところが多い。そういう意味で、本研究の学術的意義、社会的意義は大きい。

＜引用文献＞

Usami, Mayumi. 2020 「教材作成支援機能を持つ共同構築型 WEB 教材-NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の展開-」Arun Shyam 『Japanese Language Education in South Asia: Issues & Challenges』 The EFL University Press. 255-276.
宇佐美まゆみ(2012)「母語話者には意識できない日本語コミュニケーション」野田尚史編『日本語教育のためのコミュニケーション研究』、くろしお出版：63-82.

コーパス

宇佐美まゆみ監修(2021)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2021 年 3 月版』

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 宇佐美まゆみ	４．巻 -
２．論文標題 なぜ自然会話を素材とするWeb教材が言語と文化の教育に最適なのか？―21世紀の教材のあり方―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム要旨集	６．最初と最後の頁 62-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 東中 竜一郎、船越 孝太郎、稲葉 通将、角森 唯子、高橋 哲朗、赤間 怜奈、宇佐美 まゆみ、川端 良子、水上 雅博	４．巻 35
２．論文標題 対話システムライブコンペティションから何が得られたか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 人工知能	６．最初と最後の頁 333～343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jjsai.35.3_333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宇佐美まゆみ，片上大輔	４．巻 -
２．論文標題 談話研究と言語処理,人工知能研究の連携に向けて	５．発行年 2019年
３．雑誌名 言語処理学会 第25回年次大会 発表論文集	６．最初と最後の頁 835-837
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 東中竜一郎，船越孝太郎，稲葉通将，角森唯子，高橋哲朗，赤間怜奈，宇佐美まゆみ，川端良子，水上雅博	４．巻 -
２．論文標題 対話システムライブコンペティション2	５．発行年 2019年
３．雑誌名 言語・音声理解と対話処理研究会研究会資料	６．最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宇佐美まゆみ	4．巻 -
2．論文標題 対話システム研究と談話研究の接点―言語研究から貢献できることは	5．発行年 2019年
3．雑誌名 2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集	6．最初と最後の頁 27-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宇佐美まゆみ	4．巻 -
2．論文標題 視点としての「日本語教育学」という捉え方の必然性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 2020年度 日本語教育学会春季大会 予稿集	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宇佐美まゆみ	4．巻 23
2．論文標題 『総合的会話分析』に基づく研究―『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話リソースバンク(NCRB)』との連携に触れながら―」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ヨーロッパ日本語教育第23号	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計26件（うち招待講演　16件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 宇佐美まゆみ
2．発表標題 なぜ自然会話を素材とするWeb教材が言語と文化の教育に最適なのか？―21世紀の教材のあり方―
3．学会等名 第23回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型リソースバンク（NCRB）を用いたコミュニケーション教材の作成法と利用法
３．学会等名 8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 『共同構築型多機能データベース NCRB(Natural Conversation Resource Bank)』構築の趣旨と自然会話を素材とする教材の意義
３．学会等名 ハーバード大学日本語教育研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 自然会話の教材化と共同構築型WEB教材
３．学会等名 第27回国学院大学日本語教育研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 自然会話の教材化と共同構築型WEB教材
３．学会等名 元智大学 特別講義（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型多機能データベースNCRB(Natural Conversation Resource Bank) 構築の趣旨と教材作成機能の使い方
３．学会等名 ハワイ大学　特別講義（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型多機能データベースNCRB(Natural Conversation Resource Bank) 構築の趣旨と教材作成機能の使い方
３．学会等名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校　特別講義（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型多機能データベースNCRB(Natural Conversation Resource Bank) 構築の趣旨と教材作成機能の使い方
３．学会等名 ニューヨーク大学　特別講義（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 間接発話理解のプロセスの解明がなぜ重要なのか ―本公募研究の趣旨に代えて―
３．学会等名 「日本語の間接発話理解 ： 第一言語，第二言語，人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」研究発表会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Mayumi Usami
２．発表標題 Universality vs. culture specificity in politeness from the viewpoints of discourse politeness theory and language education
３．学会等名 9th Annual Conference on Foreign Language Teaching and Applied Linguistics（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 対話システム研究と談話研究の接点―言語研究から貢献できることは
３．学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Mayumi Usami
２．発表標題 New version of Discourse Politeness Theory: Focusing on the concepts of "face-balance principle" and "time sequence"
３．学会等名 2019 New Zealand Linguistic Society conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 重光由加，大塚容子，宇佐美まゆみ
２．発表標題 日本語学習者の間接発話の習得：質問紙調査報告（２）
３．学会等名 日本語の間接発話理解：第一言語、第二言語、人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iori Kasahara, Mayumi Usami, and Minoru Karasawa
２．発表標題 Stereotype Priming Effects on Language Use: Applying Morphological Analysis on Conversational Data
３．学会等名 2020　Society for Personality and Social Psychology Convention（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Mayumi Usami
２．発表標題 The concepts of ‘time’ and ‘face credit’ in discourse politeness theory: New perspectives on politeness behavior between acquaintances
３．学会等名 9th International Symposium on Intercultural, Cognitive and Social Pragmatics（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 視点としての「日本語教育学」という捉え方の必然性
３．学会等名 2020年度 日本語教育学会春季大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 山崎誠
２．発表標題 「BTSJ 日本語自然会話コーパス2018年版」における母語話者と学習者の語彙的比較
３．学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 教材作成支援機能を持つ共同構築型WEB教材－NCRB（Natural Conversation Resourse Bank）の展開－」
３．学会等名 南アジア日本語教育国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Mayumi Usami
２．発表標題 Why should we utilize natural conversation corpus to second language education? : From the viewpoint of usage-based pragmatic analysis.
３．学会等名 The 2019 Hawaii International Conference on Education.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 「NCRB (Natural Conversation Resource Bank) とは？
３．学会等名 国立国語研究所日本語教師セミナー（海外）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスとNCRB (Natural Conversation Resource Bank)
３．学会等名 国立国語研究所日本語教師セミナー（海外）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型自然会話を素材とするWEB教材の必要性とNCRB（Natural Conversation Resource Bank）を用いた教材作成法」
３．学会等名 特別講演、コロンビア大学（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 なぜ自然会話WEB教材が、学習者の自然なコミュニケーション能力の育成に有効なのか？－ 共同構築型自然会話リソース バンク（NCRB）による教材作成のためにー
３．学会等名 特別講演、ニューヨーク大学（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 共同構築型自然会話を素材とするWEB教材の必要性とNCRB（Natural Conversation Resource Bank）を用いた教材作成法
３．学会等名 特別講演、カリフォルニア大学バークレー校（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 自然会話リソースバンク（NCRB）開発の趣旨と意義
３．学会等名 第2回 会話・談話研究シンポジウム 「日本語教育の新展開（2）－自然会話を素材とするWEB教材の可能性－」、国立国語研究所、東京.（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 学習者の自然なコミュニケーション能力の育成のための「自然会話を素材とする共同構築型WEB教材(NCRB)」の意義－ NCRBによる教材作成方法の紹介とともに－
３．学会等名 特別講義、久留米大学（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

自然会話リソースバンク（NCRB） http://ncrb.ninjal.ac.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山崎　誠 (Yamazaki Makoto) (30182489)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変化研究領域・教授 (62618)	
研究分担者	小川　都 (Ogawa Miyako) (00824822)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・プロジェクト非常勤研究員 (62618)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関